

資産の総合評価シート

施設名	海浜病院	施設所管課	市立海浜病院	評価番号	29-51
-----	------	-------	--------	------	-------

1 分析結果

(1) データ評価結果

評価指標	①建物性能	②利用度	③運営コスト
対ベンチマーク	△	—	—

【まとめ】

- ①建物性能は、病棟の残耐用年数が7年であることから課題ありとなった。
- ②利用度、③運営コストは、本施設と機能・用途が類似する施設が限られることから、データ評価を行わず、総合評価を実施することとした。

(2) 現用途の需要見通し

①利用実績の検証

海浜病院は、高度成長期に開発整備された海浜ニュータウンに設置する病院として計画され、S 5 9年に7診療科、一般病床185床で開院した。以降、段階的に301床まで病床数を増やし、診療科目も拡大させてきた。H 2 6年に病床数を14床減床する一方、H 2 9年10月には6床増床し、現在は一般病床293床、標榜診療科目は27科目で診療を行っている。なお、敷地は千葉県から無償で借り受けている。

産科医療や小児医療に強みを持ち、地域周産期母子医療センターとしてハイリスク妊産婦に対応するほか、入院が必要な小児科疾患を積極的に受け入れるなど、同分野における地域の中核的な役割を担っている。

また、夜間における内科・小児科の初期の応急的な診療を行う夜間応急診療（夜急診）機能を持つのも特徴である。夜急診は市医師会ほか関係機関の協力によりS 6 0年に開設され、現在も維持されている。

1 H 2 8 年度の利用状況

- (1) 病床稼働率 62.7% (前年度 69.7%)
- (2) 患者数 20万3千人 (前年度 22万1千人)
（うち入院） 6万6千人 (前年度 7万3千人)
（うち外来） 13万8千人 (前年度 14万8千人)

2 利用状況の推移 (H 2 4 年度～H 2 8 年度)

- (1) 病床稼働率 (H 2 4 年度 : 68.4%→H 2 8 年度 : 62.7%)
 - H 2 4 年度と比較して低下。H 2 6 年度には72.9%まで上昇したが、H 2 7 年度に心臓血管外科手術後の死亡事案が続いた影響により低下し、H 2 8 年度は近年最低の62.7%まで落ち込んでいる。
- (2) 患者数 (H 2 4 年度 : 21万4千人→H 2 8 年度 : 20万3千人)
 - H 2 4 年度と比較して微減。病床稼働率の動きとほぼ軌を同じくしており、H 2 6 年度に22万2千人に増加したものの、心臓血管外科手術事案の影響により、減少に転じた。特に入院患者数は、H 2 4 年度の7万5千人からH 2 8 年度は6万6千人と大きく減少しており、医業収益の柱である入院収益の低下につながっている。

3 運営コスト

- 運営コストの主な内容は、給与費、材料費のほか、委託料などの経費、減価償却費などである。H 2 8 年度の医業費用は85億91百万円であり、うち50%強を給与費が占めている。
- H 2 8 年度の医業収益は、61億45百万円であった。この他、不採算医療に見合う部分など、一定の金額を一般会計から繰り入れて運営しており、H 2 8 年度の一般会計繰入金は13億67百万円であった。
- 医業収支が厳しい状況にあるなど経営状況に課題があるため、経営改善の取組みを注視していく必要がある。
- また、建築後32年が経過し施設各所に痛みが生じてきていることから、近年は毎年度多額の設備更新や改修に係る工事が発生している状況である。

②将来の人口動態などを踏まえた利用状況の変化	・千葉市圏域では総人口は減少に向かうものの、75歳以上の高齢者人口の増加に伴い、H37年度には入院患者数がH25年度の約1.3倍になると見込まれるなど、医療需要は大きく変化することが予測される。
③将来における効率性の変化	・利用者数が減少した場合、施設利用の効率性が低下する。 (入院患者用ベッドの余剰発生など)

【まとめ】

- ・本施設は、産科医療や小児医療に強みを持つ病床数293床の中規模総合病院である。
- ・現在、入院・外来合わせ、年間延べ20万人以上の患者に利用されている。
- ・高齢者人口の増加に伴い、今後の医療需要は大きく変化することが予想される。
- ・医業収支が厳しい状況にあるなど経営状況に課題があるため、経営改善の取組みを注視していく必要がある。
- ・施設の老朽化に伴い、設備更新や改修に多額の費用を要するようになってきている。
- ・しかし、施設の将来的なあり方が決定しない間は、修繕など施設への投資は必要最低限に留めるべきである。経営改善の取組みと併せて、施設面も含めた今後の医療提供のあり方を早期に検討し、決定する必要がある。

(3) 公共施設再配置

①検討すべき再配置パターン	・千葉県救急医療センターが隣接しているが、周辺には医療機関はない。 ・病院の施設特性、必要規模を勘案すると、直ちに再配置することは難しい。
②留意すべき制約条件	・多くの入院患者を抱える総合病院であることから、再配置を行う場合でも病院のオペレーションを止めることはできない。 ・施設特性上、他の施設との複合化にはなじまない。 ・地域防災計画上、災害拠点病院（地域災害医療センター）とされている。 ・千葉県は、H33年度末を目指して美浜区豊砂に千葉県救急医療センター及び千葉県精神科医療センターの一体的整備による新病院を建設し、千葉県救急医療センターは同地に移転する計画であることを発表している。

【まとめ】

- ・施設特性、必要規模を勘案すると、直ちに再配置することは難しい。
- ・経営改善の取組みと併せて、現施設の継続利用または再配置など、施設面も含めた今後の医療提供のあり方を検討していく必要がある。

(4) 資産の立地特性

①重視すべきエリア・資産の特性	・市街化区域（第二種中高層住居専用地域）である。 ・最寄駅（JR検見川浜駅）まで約1,500m。 ・JR検見川浜駅からバス乗車、「海浜病院」下車。 ・敷地は千葉県から無償で借り受けているものであり、その他用途での活用や売却を行うことはできない。現在の用地で病院事業を行わないこととなった場合は、敷地を千葉県に返還することが想定される。
②公共としての活用ポテンシャル	・敷地は千葉県から無償で借り受けているものであり、その他用途での活用や売却を行うことはできないことから、公共としての活用・外部転用とともにポテンシャルは低い。
③外部転用のポテンシャル	

【まとめ】

- ・敷地は千葉県から無償で借り受けているものであり、その他用途での活用や売却を行うことはできないことから、公共としての活用・外部転用とともにポテンシャルは低い。

2 総合評価

評価結果	・建物性能は、病棟の耐用年数が7年であることから課題ありとなった。 ・海浜病院は、産科医療や小児医療に強みを持つ病床数293床の中規模総合病院である。 ・入院、外来合わせ、年間延べ20万人以上の患者に利用されている。 ・医業収支が厳しい状況にあるなど経営状況に課題があるため、経営改善の取組みを注視していく必要がある。
継続利用	・本施設の施設特性、必要規模を勘案すると、直ちに再配置することは難しい。 ・施設の老朽化に伴い、設備更新や改修に多額の費用を要するようになってきているが、施設の将来的なあり方が決定しない間は、修繕など施設への投資は必要最低限に留めるべきである。
方向性	
⑩当面継続	・以上のことから、当面は利用を継続しつつ、経営改善の取組みと併せて、施設面も含めた今後の医療提供のあり方を早期に検討し、決定する必要がある。